



定期的に検診を受けましょう  
生理痛



女性は思春期になると月経(生理)がはじまりますが、多くの女性が月経痛(生理痛)に悩まされるようになります。痛みが病的に強く、日常生活に支障を来したり、吐き気や疲労感を伴ったりするような状態は月経困難症と言われ、治療が必要です。少子化で妊娠回数が少なくなると一生の間の月経の回数が増えますが、そのために月経痛が起りやすく重症化しやすくなると考えられています。月経困難症には大きく分けて機能的月経困難症と器質性月経困難症の2種類があります。

性月経困難症は成熟とともに自然治癒することもありますが、器質性月経困難症は閉経するまでは病状が悪化することが多いので積極的な治療が必要になることが多いです。

機能的月経困難症は10〜20歳代前半に多く、子宮や卵巣などの女性器に異常はなく、子宮の内膜から分泌される子宮を収縮させる物質が出過ぎているため起こると言われています。それに対して器質性月経困難症は子宮内膜症、子宮腺筋症、子宮筋腫などの病

自覚症状だけでは機能的か器質性かの診断は困難です。で、強い月経痛が続くときは産婦人科を受診することをお勧めします。月経痛を我慢する必要はありません。痛いときはまず鎮痛剤を服用することをお勧めします。痛みが強くなつてから服用するより痛みはじめに服用する方が効果が高いと言われています。できれば20歳以上の女性は月経痛の有無に関係なく定期的に子宮がん検診を受けるようにしましょう。その際に月経痛の原因となる病気が見つかることがよくあります。

気が原因で月経痛が強くなっている状態を言います。機能